

《表1》平成20年度1人当たり後期高齢者医療費

上位5位		
順位	市町村名	1人当たり金額
1	荒尾市	1,033,766円
2	城南町	1,022,750円
3	阿蘇市	1,021,719円
4	熊本市	1,016,903円
5	上天草市	1,013,777円

下位5位		
順位	市町村名	1人当たり金額
47	五木村	717,140円
46	南小国町	720,798円
45	相良村	732,805円
44	多良木町	783,639円
43	産山村	763,265円

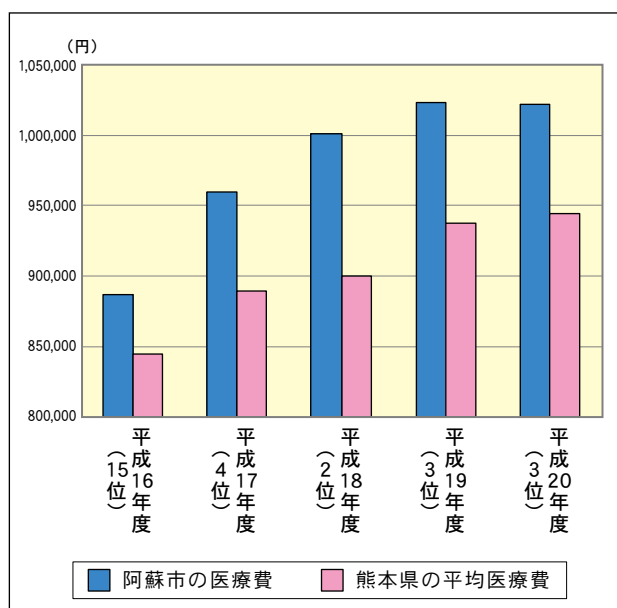
平成20年度阿蘇市の75歳以上の後期高齢者医療費は、総額51億6,275万円で、被保険者の増加に伴い前年度よりわずかに増加しました。

また《表1》のとおり1人当たりの医療費は県下47市町村中、第3位で、最も低い五木村より31万4,579円も高い状況にあります。阿蘇市の後期高齢者医療費は、《表2》のように合併以降、増加の一途をたどっていて、平成20年度はわずかに前年を下回りましたが、それでも県内の平均を1人当たり8万円近く上回っています。

医療費の内訳は《表3》のとおり入院に係る医療費が最も多く、本市の総医療費を押し上げています。

(※「熊本県の平成20年度後期高齢者医療費の概況」平成21年12月熊本県健康福祉部発表)

《表2》1人当たり医療費の状況



《表3》医療費の内訳

区分	金額
入院	2,789,520,800円
入院外(外来)	1,225,067,780円
歯科	111,042,890円
調剤	731,235,330円
食事療養費+生活療養費	290,367,934円
訪問看護療養費	498,250円
高額医療費・現金給付等	15,013,552円
合計	5,162,746,536円

民間福祉団体が行う活動(研修会・行事等)を支援!

熊本県社会福祉振興基金助成事業「民間福祉団体活動推進事業」のお知らせ

熊本県社会福祉協議会は、県内の民間福祉団体活動の活性化を促進することにより地域福祉の向上を図ることを目的として、熊本県振興基金により助成を行います。

助成対象事業：民間福祉団体等が主催して開催する研修会や行事等の新規事業とします。

助成金額：申請事業の助成対象経費のうち3分の2以内を助成します。助成の上限額は50万円とします。

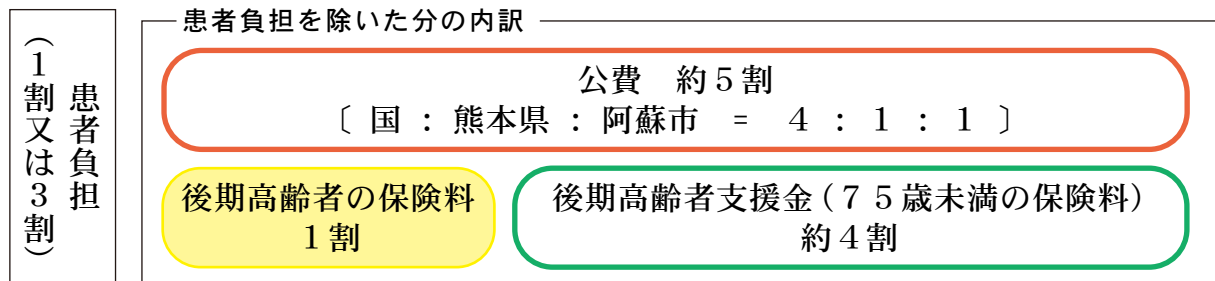
問い合わせ先：阿蘇市社会福祉協議会地域福祉班 ☎ 32-1127 FAX 32-4940



保険証1枚あれば誰でも少ない自己負担で病院を受診できる、国民皆保険の制度が出来て約50年、日本人の平均寿命はそのお陰で驚異的に伸びました。患者負担を除いた後期高齢者の医療費は《表4》のとおり、社会全体で支える仕組みになっています。これから安心して病院を受診できるよう皆で医療費の適正化に努め、保険料も納期までに忘れず納めましょう。

日本人の平成20年の平均寿命は女性が86・05歳、男性79・29歳で、いずれも3年続けて過去最高を更新したことが厚生労働省の発表した「簡易生命表」でわかりました。男性は前年の3位から4位に順位が下がりましたが、女性は24年連続で長寿世界一となりました。厚生労働省によると医療水準の向上が平均寿命の延びた理由と考えられています。

《表4》医療費負担の内訳



問い合わせ先：高齢者支援課 高齢者医療係 ☎ 22-3145

肝炎検査は受けられましたか？

5月17日～23日は肝臓週間です！
無料検査を受けましょう。

B型肝炎・C型肝炎は、肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気で、自覚症状がほとんどないため、検査をしないと、自分が肝炎であるかどうかはわかりません。

県では、各保健所及び県内約640の医療機関で肝炎ウイルスの無料検査を実施しています。40歳以上でまだ一度も検査を受けたことがない方は、早めに検査を受けましょう。

検査は採血だけですので、短時間で終了します。

なお、阿蘇保健所では、毎週水曜日の午後1時～午後4時(事前に予約が必要です)に検査を行っております。

また、県では、肝炎インターフェロン治療費及び核酸アナログ製剤治療費の助成を行っています。

【問い合わせ先】 熊本県阿蘇保健所



☎ 32-0535

心臓移植

田中美紗都さん、募金目標額達成「皆さんに感謝」

重い慢性心不全を患い、ドイツでの心臓移植を目指している熊本市の田中美紗都さん(12歳)を支援する募金活動が、開始から1ヶ月で目標額の8,200万円を超えました。

阿蘇市でも多くの皆様のご協力をいただいたことに対し、ご家族が心から感謝されています。なお、美紗都さんは、5月中旬にもドイツに渡航し、移植手術に備えることになっています。